

群馬県ICT経営者セミナー

DXの実体験披露

関東地方整備局の群馬県内事務所と群馬県、群馬県建設業協会(青柳剛会長)は5日、前橋市の群馬建設会館で群馬県ICT施工経営者セミナー



を開いた。群馬建協の会員企業である大手組、塚田建設の2社が最新のDX(デジタルトランスフォーメーション)技術を導入した実体験を披露した。写真。会場のほかオンライン配信も行い、合計92人が参加した。

高崎河川国道事務所の杉崎光広所長は冒頭、「群馬県では初の経営者セミナー開催となる。最新の取り組みや活用事例を参考に、生産性がさらに向上し、担い手確保につながることを期待する」と述べた。

関東整備局や群馬県の施策

紹介に続き、大手組の大手一信代表取締役は「小規模ICT施工の取り組みICT施工内製化への歩み」と題し講演した。花岡雄矢工務課長と佐藤尚希工務主任は実際の施工事例をスライドを使い解説した。「外注に頼らず内製化を目指した」と語る大手代表取締役は「各機器の試用期間を最大限に活用し、実践向きであれば購入して活用した」と機器購入費用削減の工夫を明かした。「若手社員は有効なツールがあればすぐに使いこなしている。社員の平均残業時間は24年に月4時間まで減少し、ほぼ定時帰宅が実現している」とICT導入の利点も強調した。

塚田建設の塚田安秋代表取

締役は「小規模ICT施工は会社を救った。ますます便利になる建設ICT技術」をテーマに経験談を話した。青木正人ICT工務課長は実際の活用事例を紹介した。塚田代表取締役は、「求人を出しても人が集まらなかったが、小規模ICT導入が採用、ひいては社員の若返りにつながった。今後の人手不足を考慮すれば投資価値は十分にある」と強調した。続けて「高額なICT機器の購入は段階的に購入することをお勧めする。今なら補助金や助成金も活用できる。普及が進めばICTの設計割り増しも打ち切りになるかもしれない。導入するならば早いほうが良い」と助言した。

ICT施工 群馬建協ら経営者セミナー 関東整備局と県が施策説明 小規模テーマの講演も

群馬県建設業協会（青柳剛会長）と群馬県、関東地方整備局は5日、前橋市の群馬建設会館で「群馬県ICT施工経営者セミナー」を開いた。写真（群馬建協提供）。発注者の取り組みとして、関東整備局と群馬県が建設現場の生産性向上の現状や強化に向けた施策を説明した。建協会員企業2者が講師役となり、小規模ICT施工をテーマにした講演も行った。

杉崎光広関東整備局高崎河川国道事務所長のあいさつの後、関東整備局と群馬県が発注者の取り組みを紹介した。関東整備局は、建設現場のオートメーション

化に向けたトップランナー施策として▽施工▽データ連携▽施工管理の3本柱を紹介。小規模工事向けICT施工の現状や普及・強化の活動も報告した。ICT施工の導入に関する補助金と助成金に関する情報も提供した。

群馬県は、県土整備分野の最上位計画となる「ぐんま・県土整備プラン2020」の概要を説明。社会資本の整備や維持管理の担い手の確保・育成に関する今後10年間の取り組みの方向性などを示した。

講演した2者と講師役、タイトルは次の通り。

▽小規模ICT施工の取

組み（ICT施工内製化への歩み）Ⅱ大手組（大手一信代表取締役、花岡雄矢工務課長、佐藤尚希工務主任）
▽小規模ICT施工は会社を救った！『ますます便利になる建設ICT技術』
第1ステージはクリアした！第2ステージ攻略へⅡ塚田建設（塚田安秋代表取締役、青木正人ICT工事課長）。



群建協など

施工への導入促進

経営者向けICT説明会



杉崎所長

群馬県建設業協会と国土交通省関東地方整備局、県は5日、前橋市内の群馬県建設会館でICT施工経営者セミナーを

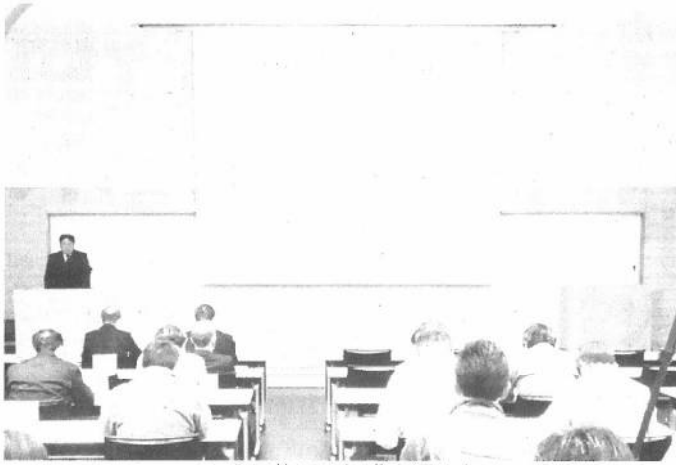
開いた。会員32人が出席したほか、56人がリモートで聴講した。県内では初めての開催となる。同セミナーはICT施工の導入には経営的な判断も必要となることからICT施工導入のきっかけと

冒頭、あいさつに立った国土交通省高崎河川国道事務所の杉崎光広所長は「本セミナーで得た最新の取り組みや活用事例を参考にしてもらいたい」と呼び掛けた。

セミナーでは発注者と受注者がそれぞれの立場からICT施工に関する取り組みについて発表。発注者の取り組みは関東地方整備局企画部施工企画課や県建設企画課の職員が登壇し説明した。

この後、大手組（大手一信代表取締役）と塚田建設（塚田安秋代表取締役）が自社における小規模ICTの取り組みについて発表。大手組はICT施工の歩みや取り組み内容、施工事例を説明した。

塚田建設は小規模ICT施工の取り組みを始めた理由やメリット・デメリットのほか、今後の課題と展望、施工事例などについて発表を行った。



ICT施工の知識を深めた

ICT施工 成果紹介 前橋で経営者セミナー



講演する大手社長(中央)

情報通信技術（ICT）による施工を広げようと、県建設業協会（前橋市元総社町、青柳剛会長）や県などは5日、「ICT施工経営者セミナー」を同市の群馬建設会館で開き、建設業を営む経営者ら約50人が参加した。

セミナー主催者のうち、国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所（高崎市）の杉崎光広所長は「担い手確保、新3K（給与・休暇・希望）への転換、企業の経営環境の改善を目指すし、ICTの全面的な活用の推進を加速化させてきた」とあいさつ。発注者の立場から同局と県が取り組みを紹介した。

講演では、大手組（安中市）の大手一信社長らが「小規模ICT施工の取り組み（ICT施工内製化への歩み）」と題して、導入のきっかけや成果などを発表。大手社長は「導入によって生産性が向上し、作業環境が改善した」と強調。県は「ICT先進県である」とも語った。

塚田建設（東吾妻町）の塚田安秋社長らによる「小規模ICT施工は会社を救った！『ますます便利になる建設ICT技術』」と題した講演もあった。

（大楽和範）